

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890500166		
法人名	社会福祉法人 光明寺福祉会		
事業所名	グループホームくつろぎ		
所在地	福井県大野市中据52-1-2		
自己評価作成日	令和5年10月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和5年11月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・転倒予防の為に、真日、午前と午後昇降運動とスクワット、体操、下肢の座位訓練を実施している。</li> <li>・作業療法、学習療法、音楽療法、レクリエーション等を行うことで、全員が、生き生き活動する事が出来る。</li> <li>・生活動作訓練として、食後に、食器洗い、掃除。入浴後に洗濯、洗濯干し、食事の用意など、各々が出来る事を職員と一緒に、続けている。</li> <li>・畑作業や散歩、外出など、屋外で活動することを大切にしている。食物を育て収穫し、料理をして食べている。</li> <li>・今年は、感染予防対策をしながら、面会や音楽会などの慰問の方の受け入れもやっている。</li> <li>・カラオケの設備もあり、ミュージックケアの指導者もいるので、音楽レクやカラオケの練習なども日常的に行っている。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、大野盆地の南部、上庄地区に位置しており、自然豊かな田園風景の中にある。敷地内には、畑もあり、利用者と共に野菜や草花を育てている。コロナ禍で自粛されていた外出・面会も、徐々に再開され、外出は季節に応じ近隣へ月1~2回、全員対象で行われている。地域住民との交流も、地区の方から『報恩講』のお誘いを受けたり、音楽会や編み物教室に招くなど地域と結びつく姿勢がみられる。広報活動として、くつろぎ便りを区長を通じて毎月集落に配っている。日常生活の中では、利用者の体力向上・維持を目指して、昇降運動や体操、作業療法や音楽療法等一人ひとりの状態に応じたプログラムを提供している。食事作りは、利用者の好みを把握して、食べやすい工夫と季節感も取り入れた献立を、利用者の協力を得て仕上げている。服薬管理にも誤薬リスクを回避するために、薬の写真を個人別に載せたお薬チェックファイルを考案し取り入れている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に心がけている。毎月の職員会議で、意見を出し合っている。	法人理念と事業所の理念は相重なるものがあり、職員・利用者の目につきやすい共用空間のホールに改めて大きい文字で掲示している。管理者と職員は、常に意識して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月新聞を発行して、施設の事を知ってもらえるように情報発信している。 毎月、恒例の法話会に地域の方がお参りにきている。	自治会には加入しているが、地域活動に参加することは少ない。広報紙くつろぎ便りの配布や、法話や音楽会など事業所の行事参加を勧めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつ外部の人の出入りを進めています。パコーン太鼓の先生や編み物の先生に来てもらっている。運営推進委員との交流もあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告書にて、活動の状況をお伝えし、意見交換を行っている。また、職員やご家族にも報告書を配布し、確認してもらっている。	コロナも5類に移行し、ようやく2か月ごとに会議を開催している。地域への活動状況報告として、くつろぎ便りを毎月一回発行して、集落に配布している。	利用者の家族には、詳しい内容が分かるように議事録も付けて、全員に配布することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者には、運営推進委員をお願いしており、報告書等で、情報を発信している。 わからないことも気軽に相談している。	市の担当者は、運営推進委員でもあり、日頃から連絡を密に取り合い、事業所の実情を理解してもらおうと共に、ケアサービスについての相談なども行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0にむけての職場内研修を実施。もちろん玄関の施錠はしていない。不穏になられた時や訴えがある時は話を聞くようにしている。また、市役所の認知症高齢者位置検索装置貸与事業を利用している。	身体拘束防止の手引き書はあるが、マニュアル化はされていない。玄関とホームの出入り口は、日中開錠している。夜間と2階下り階段は施錠し、エレベーターはロックして、職員と一緒に行動するようにしている。	身体拘束防止手引き書に基づいて、実際の状況に則したマニュアル化作りに取組まれる事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	10月に虐待防止の研修に参加。職員会議の際、勉強会をしている。不適切ケアが虐待につながることを学ぶ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度は、資料を配布し、学習後、簡単なテストを実施している。おおむね理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者が家族に十分に説明を行い質問ある時は理解して頂けるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月ごとにカンファレンスを実施、利用者や家族の意見、要望などを話し合う機会を設けている。出来る限り、運営に反映させるようにしている。	玄関に意見箱を設置し、カンファレンスや受診時、ラインや電話で家族からの意見を聞き、その意見を職員間で共有して、運営に反映させている。利用者には、年1~2回食事アンケート調査を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の勤務の中で、それぞれの思いを聴くようにしている。良い意見の場合はすぐに取り入れる。	月1回、全員参加の職員会議では、管理者が職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理者からの取組み事案を丁寧に説明して、実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	今年は、有給休日を取れるようになった。去年の残っている有休を使ってもらえるようにシフトの調整をしている。職員と面談し、少しずつ改善してきた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を順番に受講してもらっている。全員が受講できるように工夫している。内部研修、職員会議は、全員参加で、月1回開催できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	工夫している施設へ、勉強に行ってほしいといつも思っているが、まだまだ受け入れしてくれる施設が、無いのが現状である。必要だとは感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を聞くように努めている職員がほとんどである。家族の協力もお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期受診やカンファレンスの時など、家族の思いを聴くようにしている。また、小まめに連絡を取る手段として、ラインを利用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する際は、家族と本人も含め、十分に話し合うことを、大切だと考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクや談話の時、どのように過ごしてこられたのかなど、本人を理解するために、話を伺うようにしている。出来る事はなるべく自分でして頂くように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と相談しながら、一緒に支援している。家族も精一杯協力してくれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を積極的に受け入れている。手紙や電話をするように勧めている。	家族との関係を深めるために、タブレットを使い、音声や写真を送ったり、手紙や電話をかける支援を行っている。馴染みの場所の喫茶店や美容院にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合い、仲良く生活することを大切にしている。トラブルにならないような配慮は常にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、丁寧な対応に心掛けている。相談ある時は、力になれるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が中心になり、利用者の思いを聴くようにしており、モニタリングに反映している。困難な場合は全員で話し合い、試行錯誤している。	ひもときシートを活用して、評価→分析→共通理解と課題解決を図っている。利用者が日記を付けるようになり、そこから思いを知ることが出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報の共有、ケアの統一に努めている。全員がいつでも見れるように、カルテに情報を閉じている。サービスの経過は日々の日報や、連絡ノートを利用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	対応が困難な方の場合などは、ひもときシートを使い、全員が利用者理解のために意見を出し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てるにあたっては、本人家族の意見を聞いたうえで、担当者と協議の上、作成している。	3か月ごとのモニタリング、ケア会議に沿って、本人・家族の意見を確認し、介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月、支援経過を担当者に作成してもらっている。職員は利用者全員の目標を理解しており、毎日チェックシートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	団体生活が成り立つのであれば、常に柔軟に対応している。利用者の個性や家族関係に合わせることもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友人や交流のあった方など、面会の申し込みがあるので、短時間ではあるが、積極的に行っている。地域の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際には、バイタル表や経過記録を文書にて報告している。重要な報告や相談のある時は、受診前にFAXにて報告相談するようにしている。	受診は、基本的には家族が付き添い、出来ない場合は職員が付き添うか往診を受ける。冬季間は、協力医による往診がある。訪問看護ステーション(契約)の服薬・受診時の指導助言がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡をとっている。利用者に異常があった時は、報告し、指示をもらっている。また、受診時の伝達事項も看護師に伝えている。連絡を小まめに取りながら、利用者の健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も利用者の状態などを聞くようにしている。退院する際には、退院後の生活について、指導してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時においても十分説明はしているが、必要に応じて、本人の意思やご家族の意思を聞くようにしている。また、施設で出来る事もきちんと伝えている。	早い段階で家族との終末期の相談、かかりつけ医との話し合いを行い、事業所で出来る事を十分に説明しながら進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時における対応の仕方などは、研修や訓練で、殆どの職員が身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練、防災訓練も実施しているので、全職員が身に付けている。地域との協力体制は、必要時には応援に来てくれるようになっている。	年2回の昼夜想定火災訓練を実施している。緊急連絡網などを整備している。	運営推進会議において、地域住民との協力体制の確認、備蓄品の確保について再協議、また、あらゆる災害に備えたマニュアルの作成を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーに配慮した声掛けや対応は、職員間で確認し合えるようになってきている。一人一人の思いに寄り添うように努力している。	一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけや対応を実践し、職員でお互いに確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何が食べたいのか問いかけたり、どこに行きたいのか決めてもらって外出したり、塗り絵は自分の好きな色を使ってもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしたいのか決めてもらっている。何をしたいのかわからない方には、色々用意して、選んでもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方は自分でおしゃれしているし、声掛けや、支援が必要な方には手伝うようにしている。髪が伸びてくると家族に美容院へ行ってくれるようお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を作ったり、片づけていたりしている。食事に関してのアンケートを取り、参考にしたり、メニューに取り入れたりしている。	利用者の好みは、口頭やアンケートで把握し、献立に反映している。利用者が得意な調理に参加したり、準備や片付けも行っている。マグカップは、公民館行事に参加して手作りのものを、各自使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合った食事形態で提供している。水分量も記録し、しっかり水分補給できているか確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、自室の洗面所にて、口腔ケアを行っている。介助の必要な方は職員が付き添い異常がないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を支援しているが、夜間は2名の方がポータブルトイレを使用している。パットの交換が必要な方に関しては、定時に声を掛け、誘導している。	電子カルテの導入により、各自の排泄パターンを正確に把握し、声かけ・トイレ誘導を行っている。布パンツ使用者は4名、他の利用者はパット使用と、トイレでの排泄自立が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝はきな粉牛乳を摂取、ヨーグルト、ピルクルを交互に摂取。オリゴ糖や野菜豊富な手作りメニューに気をつけています。また、運動や便秘予防体操なども毎日、実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴槽が大きいので、入浴日は決まっていますが、先に入りたい人から進んで入浴してもらっている。ゆっくり入浴が楽しめるように、BGMをかけて雰囲気づくりに取り組んでいる。	月・水・金曜日の午前中、週3回入浴を実施している。イベント入浴では、レモン・ゆず・菖蒲を入れ、BGMかけるなど、入浴を楽しめる工夫を行っている。入浴担当者は2名で、1名は更衣・誘導・ドライバーを担当している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝たいときに寝てもらっている。日中活動したり、運動することで、質の良い睡眠が取れるように関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がわかるように、各自の薬の写真と効能を記載したファイルを作っている。誤薬を防ぐためにも活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除や食事の片づけ、洗濯など、役割を持って生活してもらっている。また、レクや行事など、1人1人に合った楽しみごとを工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月2回は、遠くへ外出するようにしている。また、天気の良い日は地域の花壇のお花を摘んで来て、花瓶に生けてもらっている。職員が少ない時は、屋上で日向ぼっこを楽しんでいる。	月1～2回のドライブは全員参加で近場へ外出し、季節に応じて利用者の希望に沿って実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う事は、とても大切な事だが、所持することは難しい。お小遣いを預かり、外出した時に買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している人には、充電や操作を頼まれる事がある。はがきや手紙のやり取りも勧めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえるような壁画にしたり、季節のお花を飾ったり、清潔感のある空間を大切にしている。ゆったりくつろげるソファを配置している。また、メダカがいる事で、癒しのスペースもある。	共用空間は、広々と清潔で明るい雰囲気 が保たれている。手作りの作品や写真が所々に飾られて、季節の花やメダカも飼育される居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パーティーや、観葉植物を置くなどの工夫が必要だと考えている。喫茶コーナーも作り、好みのドリンクが飲めるようにしたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で快適に過ごしてもらうために、本人の使い慣れた家具やソファを持ってきてくれるようお願いはしている。今年の夏は暑かったので、各部屋にのれんを用意してもらった。	備え付けの家具以外にも、使い慣れた家具が持ち込まれ、家族の写真や手芸品なども飾られている。各部屋の入口には、のれんが掛けられ、明るい雰囲気が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	自立した生活を送れるように、改善できることはないか、検討していきたい。一人一人の出来る事、わかることを生かせる環境にしていきたい。		